

世間解

第三十九号

令和二年八月

発行 西法寺

念仏もうさるべし

―学仏大悲心（仏の大悲心を学ぶ）四―

八月になりました。今年は二月頃から新型コロナウイルス感染症のことや豪雨災害、七月が終わっても学校が休みになっていなかったりと色々な事が重なり、のんきに夏になったなあという気がいたしません、暑さは間違いなく夏であります。ただの気慰めでも強がりでも何でもなく、本当にお念仏さまがあってくださってよかったなあと思うのであります。皆さまにはお念仏ご相続の中からお身体くれぐれもお大切ななさってくださいませ。さて、六月から今年七回忌をお迎えになった梯實圓和尚のご法話をお聞かせいただいております。阿弥陀さまのご本願のおはたらきによって私に届き私を包み支えてくださっているお念仏のお心を続けてお聞かせいただきます。



これがね、法然聖人のお言葉なんです。

『…へただ念仏して、弥陀にたすけられまゐらすべし』というのには「なんまんだぶつ」と「撰取して捨てないぞ、お前を必ず助けるぞ」と如来さまがおっしゃってくださいさる。そのお言葉が「なんまんだぶつ」と響いてくる。だから私は聞いて慶ぶだけだ。どんな心で称えてるか、どんな思いで称えてるか、そんな事考えんでよろしい。それよりも「なんまんだぶつ」と称えれば「声につきて決定往生の思いをなすべし」

ご開山がちゃあんと書き残してくださった法然聖人の法語集、『西方指南抄』という書物にもちゃんとその言葉が出ております。

だからご開山はね「お念仏は本願招喚の勅命だ」阿弥陀さまが願いを込めて私を招はまねく。喚はよび覚ます。喚は「よぶ」ということですがこれを

ご開山は「ヨバフ」と訓をうってはる。「ヨバフ」というのはね、これは、よび続ける、ということですよ。

如来さまは生涯私を喚び続けていてくださる。

何で仏さん喚び続けんならんかというたら、なに、私たちの姿見たら思うわ。

今聞いているかと思たら他のこと考えたり。ぽーっと横のこと考えたり。念仏しながらでも、他のことばーっかり考えてるでしょ。お経読みながらでもアンタ、

何処を、何を讀んでるやわからへん、気がついたら終わっとった。そんな事ですよ。実に我々は心あっち向いたり、こっち向いたり、うろちよろ、うろちよろ、うろちよろしてらるでしょ。だから仏さまは喚び続けるわけなんですよ。

「気づいてくれよ。どうぞ、気づいてくれよ」と喚び続ける。喚び覚まし続けるわけですね。それで私は「あつ、また喚んでいてくださるんやな」と、又じゃない

わ、ほんとはズーッと喚び続けていらっしやるんだけど。

そういうことだね、如来さまは喚び続けてくださる。そして私は喚び覚まされ

る。そしてね、お念仏を通して「ああ、そーいや仏さまはこーいふうに、こんな時にはこーいふうに考えろ、こんな時にはこーいふうに味わうんだ、こ

んな時にはこーいふうに思たらええやで。こー考えたら奈落の底へ落ち込んでしまうで。こんな事考えたら腹立つばかりやで。それよりもこー考える、こー

味わうんだ。こーいふうに受け取るんだ。」と仏さまは親切に色々教えてくださ

さってる。それをお念仏の中で自然に思い出す。

「…、あつそやそや、仏さまこんな時にはこーいふうにせい、おっしゃった

なあ。」と思いだすでしょ。その教えが私たちを軌道修正しながら、少おしずつ

だけれども仏さまのお心になつた生き方しようとする。そーいふ人間に私た

ちをね、少おしずつ矯め直してくださるんですよ。これがね、仏さまの救いのは

たらきなんだ。…」

なもあみだぶつ合掌